



武蔵 蔵中山台地区は昭和後期に造成され、建築協定で良好な住環境が維持されている住宅地であり、四季の森公園、横浜動物の森公園（ズーラシア）に隣接した緑豊かな自然が残る魅力あるまちです。

▲バス路線開通でまちが活性化

バスを得て自由も得た

武蔵中山台交通対策委員会

地域に適した交通手段

武蔵中山台地区は緑豊かなまちである一方、JR横浜線中山駅から離れており、住民の足である神奈川中央交通バスの路線はあるものの最寄りのバス停まで標高差およそ三十メートル、距離八百メートルもあり、通勤や買物・通院にはほとんどの住民が自家用車を利用しています。しかし、高齢化に伴い運転が難しくなる住民も増え、日常生活に不便を感じて自宅を売却し、駅の近くのマンションに住み替える人も出始めてきました。

これに危機感を感じた自治会が、区役所からのアドバイスをもとに新たなバス路線の

開通を目指し、バス誘致活動に取り組みることとして平成二十五年に「交通対策委員会」を立ち上げました。ここから自治会長推薦の委員会メンバー九名を中心に「横浜市地域交通サポート事業」を活用した地域に適した交通手段の検討が始まるのです。

初めの取組は、地域での移動傾向を把握するため、十歳代以上の住民を対象としたアンケートです。以前からこの地区では納涼祭や清掃活動を通じて、住民同士が顔の見える関係を作っていたためにアンケート回収率は九割を超えました。アンケートでは新しい発見がありました。それは、高齢者はもちろん、十代〜五十代の若い世代も高齢者



- 1 武蔵中山台交通対策委員会の皆さん
- 2 自治会館前バス停
- 3 バスの待機にも利用
- 4 武蔵中山台西バス停
- 5 路線バス開通式の様子

以上に交通に対して不便さを感じていたのです。

このアンケートを基に運行ルートとバス停の位置の検討に入りました。全世帯の住民が一番利用しやすいことを念頭に、試行錯誤を繰り返しながら決めていきました。特にバス停の位置を決めることは難航を極めました。「バス停が家の前に新設されると乗客から家の中をのぞかれる。」といった反対意見が出て、結果的には自治会長と運営委員長の自宅前に決定しました。が、その近隣の住民には個別に説明し、またその他の住民には回覧板やチラシでお知らせし、地域の合意を丁寧に図りました。

バスを得て、自由も得た

約二年の年月を経て、運行ルートとバス停の位置が決まり、ついに平成二十八年に実証運行が開始されます。およそ四か月の実証運行

では、日々の乗車人数のグラフに目標ラインを入れたチラシを作成して、住民に配布するなど乗車人数増加の工夫を行いました。そのかいあって運行事業者の神奈川中央交通(株)が実証運行の実績を踏まえて、平成二十九年二月に正式に本格運行することを決定しました。

バス路線の開通では様々な効果を生んでいます。「通学・通勤でバスを使うようになった。」「夜、塾帰りの子供も利用している。」「バスのダイヤに従って生活するようになり、生活のリズムが変わり、外出する機会が増えた。」、そして「住民以外でも横浜動物の森公園(ズーラシア)利用者の人も活用している。」など。まさにバスを得て、自由も得たともいえるでしょう。

「当初は事業を活用すればすぐにバス路線が開通すると思っていたが、簡単ではなかった。しかし、地域交通サ

ポート事業の担当者による支援やアドバイスを非常に役立った。そして、丁寧に住民の合意を取ってきたことが今につながっている。」と委員会会長は振り返ります。

バスをきっかけにまちが活性化しましたが、今後はさらに地域緑のまちづくり事業などを行うことで数世代が住み続けたい魅力あるまちを目指して活動していきます。

地域交通サポート事業

既存バス路線がない地域などで、地域交通導入に向けた地域の主体的な取組がスムーズに進むように、実現に至るまでの活動に対して様々な支援を行う事業です。

担当者からの声

バスのルート、停留所の決定など多くのハードルを地域のまとまりで乗り越えてきました。「バスは生き物」です。それぞれの地域に合った自分たちの路線を、地域と事業者と行政が相互理解しながら進めることでバスもまちも成長していきます。

道路局企画課交通計画担当

みどりとはなのまち



白根台第九自治会

花をきっかけに助け合う心が芽生える

第九緑の会

まちをきれいに美しく

この地区を支える白根台第九自治会は活動方針の一つに「きれいで安全・安心なまちづくり」を掲げてきました。ごみ集積場所など、人の手が入りにくく一番汚くなりやすい場所をきれいに整備することで、利用者がだんだんときれいに使うようになるのを実感していました。また、古くなった地域の交通看板を補修し、見やすくなりきちんと並ぶようにしてまちの統一を図りました。そうして「清潔な」まちづくりが進んでいきました。が、何か足りない、もっと良くなりたい、まちとしてさらにステップアップしたいと思っていたところ環境創造局の

「地域緑のまちづくり事業」を知り、まちを更にきれいに

「美しく」する絶好のチャンスと考え、地域を挙げて参加することにしました。参加に関する地域のアンケートでは回収率九十二%、反対票ゼロの全員賛成、運営委員の募集には三十名もの人が手を挙げてくれるなど地域の意識の高さがうかがえます。こうして結成された「第九緑の会」の「花と緑と人が一体のまちづくり」が始まりました。

まちに広がる第九の「わ」

地域のメインストリートにはハナミズキの街路樹が並びます。まず、その根元に花を植えて花壇をつくりました。すると沿道に面した住戸はハ

旭

区の北東部にある上白根町、白根通りのバス停から十分ほど坂を上ると閑静な住宅地があります。そこは花と緑に囲まれた白根台第九地区です。

▲駐車場を彩ります



- ① 第九緑の会の皆さん
- ② 地域で緑のまちづくりに取り組んでいます
- ③ 第九の花 (イエローカサブランカ)



ンギングバスケットで沿道と住宅を花で彩り、まちには花と緑の「輪」が広がっていききました。住民は庭の手入れをするついでに沿道の花壇まで世話をしてくれるようになり、いつしか地域のつながりが生まれました。花をきっかけに知り合い、会話も生まれ、顔が見える間柄になり、自治会活動にも良い影響が表れるといった第九の「和」が広がっていききました。

地域のつながりが生まれると新たな発見もありました。もともと地域では緑の会と共に「第九お助け隊」が活躍していました。お助け隊は日々の生活の中でちよつと手を貸してほしいことを助けてくれます。地域が「お互い様」の気持ちで支え合っているのです。ある時、庭の手入れを頼まれ、お助け隊のおかげで草刈り、剪定、清掃などが進み、庭は見違えるほどきれいになりとても喜ばれました。そこ

から家主と地域に信頼関係が生まれ、まちの活動にぜひ役立ててほしいと緑の会に空いた庭を貸してくれることになりました。家主にとっては庭の有効活用にもなり、地域の防犯にも一役買うことになりました。緑の会にとってもその「空き庭」は活動の拠点として重要な役割を果たしました。空き庭で生まれた花の苗を地域の住宅に配り、それぞれの庭や花壇で育ててもらいます。また、空き庭で収穫された野菜は「園友会」という子供も含めた公園での集いで振る舞われ、地域の交流につながりました。ここで育ったものが地域に広がり、人の手に伝わる。その人がまた花を育てる。こうして第九の「環」が広がりました。

さらに、地域では学校との関わりも大切にしています。学校の周辺を花や緑で囲い、緑の会が授業のお手伝いもします。子供を大事に考え、子

供が喜べばその周りの大人たちも笑顔になります。花が育てた子供たちは心豊かにのびのびと育ちます。「花が人も育ててくれる。」と緑の会は感じていきます。花をきっかけに地域が広がる。花と緑のまちづくりが広がっています。

担当者からの声

会の皆さまが、まちの将来を考え、行動したことで、緑のまちづくりが広がったのだと思います。まちにあふれる花と緑、皆さまの笑顔に私たちもたくさんの元気をいただきました。環境創造局みどりアップ推進課

「横浜みどりアップ計画」地域緑のまちづくり事業

地域が主体となり、住宅地や商店街、オフィス街、工場地帯など様々な街で、地域にふさわしい緑を創出する計画をつくり、市民と市が協働で緑化を進めるものです。